

中心市街地エリア別ワークショップ「倉吉の未来を語らいや！」

(成徳エリア編)

【日 時】平成 27 年 9 月 27 日（日）14 時～16 時 30 分

【場 所】倉吉商工会議所

【参加者】12 名

【内 容】ワークシートに記載のテーマ 1～4 に関する意見を参加者から発表していただいた。

※詳細は下記のとおり

【主な意見】

テーマ 1：エリア活性化のあるべき姿

- ・住む人、訪れる人が喜んでいるまち。
- ・徒歩圏内で楽しめる環境が整っているまち。
- ・住みながら商売をする人が増えているまち。
- ・住んでいる人同士の絆が深い。支え合いができるまち。
- ・そこそこ静かでそこそこ賑やかなまち。
- ・町並み、景観が残される。
- ・地域行事（神社等の行事）が続けられるようなまち。
- ・全国から子育てをしたい人が集まっている（住んでいる）まち。
- ・健康寿命が延びているまち。
- ・災害に強いまち。
- ・観光客が増えているまち。
- ・コンパクトで店から店へと買い回りがしやすい（欲しい物が売っている）まち。
- ・住んでいる子どもが多いまち。
- ・（子どもが結び目となって）住民同士がつながっているまち。
- ・住民同士、商売人同士の顔が見えるまち。
- ・商業者の利益が出ている。
- ・定住人口が増えているまち。（目標 3,000 世帯）

テーマ 2：エリアにおける現状と課題

- ・城下町、山と川と町並みの風景が残っている。
- ・日本独自の文化（四季の移ろい、お茶、和菓子など）が充実している。
- ・近代の文化度が高い。
- ・緑、水、芸術、優れたものがたくさん残っている。
- ・エリア内の人口、世帯が減少している（現在 1,300 世帯）。
- ・高齢者が増えている。
- ・若年層、子どもが少ない。
- ・成徳小 143 周年で児童数 143 名、75 歳以上は 720 名。
- ・打吹まつり等、行政主導でイベントを行っている。住民の主体性に乏しい。
- ・倉吉の名物（食べ物）が少ない。

- ・ イベント等の情報が伝わらない。
- ・ 文化財が十分に活用されていない。
- ・ 空き家空き店舗が増えている。
- ・ 赤瓦1号館以外に行くところが少ない。
- ・ 景観が残っている

テーマ3、4：エリア活性化に向けての必要な取り組み

- ・ 文化財、町並みが後世に継承される取り組み。
- ・ (町並みを) 次の世代に受け継いでいく取り組み。(イタリアのまちのような)
- ・ 博物館、商業者も主体的に地域教育を実践する等して倉吉の歴史を知っている人を増やしていく取り組み。
- ・ リタイヤされた方が地域に関わりやすい取り組み。
- ・ アーティストの滞在などの関わりを増やす取り組み。
- ・ 電柱、電線の地中化。
- ・ 医療観光などの受け入れ体制の整備。
- ・ 地区内のイベント情報などが伝わりやすい取り組み。
- ・ 文化財を理解し活用してくれる人材の確保。経済的にも安定して文化が継承できる取り組み。
- ・ 日本独自の文化が充実したまちであることを活用した行政、ビジネスの展開。
- ・ 世界一の教育が受けられる取り組み。
- ・ 観光客にやさしい取り組み(案内看板含む)。
- ・ 子育て世代が集まる取り組み。
- ・ 景観を維持するため行政的なアプローチ(条例等)や民間(コミュニティ)の活動によって住みながら活用しながら残していく取り組み。
- ・ 「見たいまち」から「知りたいまち」にして本当の倉吉ファンを増やしていく。
- ・ 市のシンボルを作る(例えば打吹城の再建)。
- ・ 高齢者が自由に集まって語り合える場所づくり。
- ・ 専門的な職人がいて受け継がれる取り組み。
- ・ 教育を受けるなら成徳エリアと言われる取組み
- ・ 町並みの維持、継続を望み実践する人が増える取組
- ・ 土地や建物が次世代に受け継がれやすくなるしくみ(税制、リノベーション等の法規制等)。
- ・ 道路、公共交通等の交通網の整備。

その他

- ・ 共通のまちのテーマ、スローガンを作り目標を決めて(数値も決めて)それを達成するためにみんなで動いてはどうか。